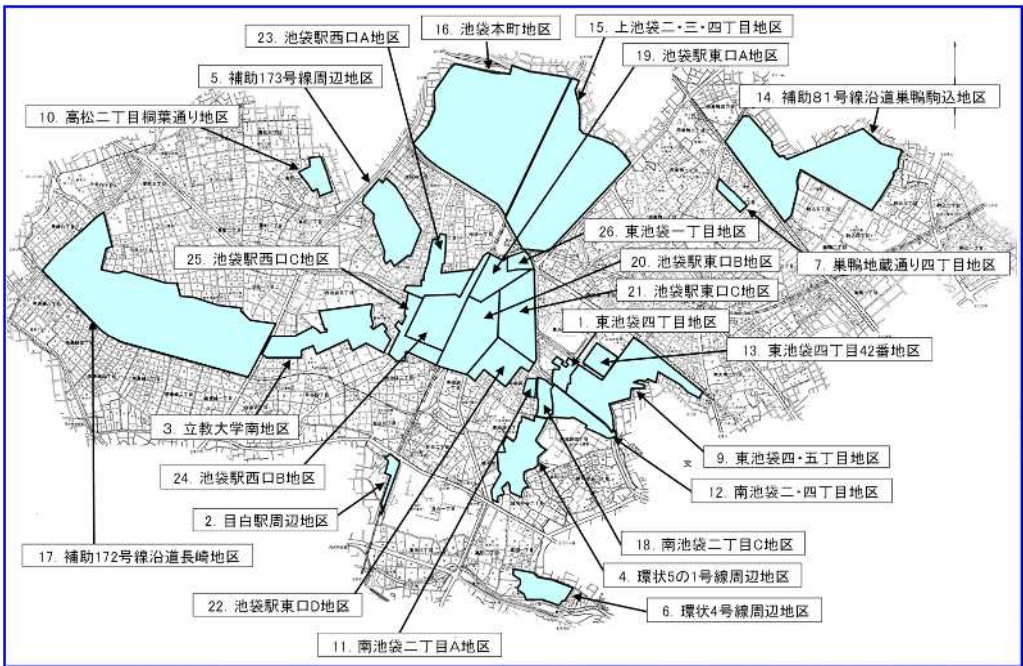


7. 誰もが居心地の良い歩きたくなるまち

1. 地域の特性を生かした都市づくり

1. 地区計画区域

豊島区全域に占める地区計画の決定区域の割合は約28.3%である。豊島区で決定している地区計画には、①都市計画道路の事業化等に伴う土地利用の変化にあわせて策定した地区（23地区）、②豊島区街づくり推進条例に基づく区民からの申出により策定した地区（2地区）がある。



番号	告示年月日	名称	面積	種類
1	H16.5.20(変更)	東池袋四丁目地区地区計画	2.7 ha	再開発等促進区を定める地区計画
2	H11.11.11(変更)	目白駅周辺地区地区計画	1.6 ha	一般型地区計画
3	H15.1.31	立教大学南地区地区計画	16.5 ha	街並み誘導型地区計画
4	H15.11.6	環状5の1号線周辺地区地区計画	10.3 ha	一般型地区計画
5	H19.1.19(変更)	補助173号線周辺地区地区計画	12.3 ha	一般型地区計画
6	H17.1.19	環状4号線周辺地区地区計画	5.5 ha	一般型地区計画
7	H17.9.28	巣鴨地蔵通り四丁目地区地区計画	1.2 ha	一般型地区計画
8	R2.3.31(廃止)	池袋駅周辺・主要街路沿道エリア地区計画	39.1 ha	一般型地区計画
9	H29.3.31(変更)	東池袋四・五丁目地区地区計画	20.3 ha	誘導型地区計画
10	H20.12.26	高松二丁目桐葉通り地区地区計画	3.3 ha	一般型地区計画
11	H24.3.30(変更)	南池袋二丁目A地区地区計画	1.2 ha	再開発等促進区を定める地区計画
12	H29.8.7(変更)	南池袋二・四丁目地区地区計画	5.6 ha	一般型地区計画
13	H28.1.15	東池袋四丁目42番街区地区地区計画	3.7 ha	一般型地区計画
14	H28.3.7	補助81号線沿道巣鴨・駒込地区地区計画	40.2 ha	一般型地区計画
15	H28.3.7	上池袋二・三・四丁目地区地区計画	46.5 ha	一般型地区計画
16	R6.12.26(変更)	池袋本町地区地区計画	65.8 ha	一般型地区計画
17	H28.3.7	補助172号線沿道長崎地区地区計画	69.0 ha	一般型地区計画
18	R6.9.18(変更)	南池袋二丁目C地区地区計画	2.3 ha	再開発等促進区を定める地区計画
19	R2.3.31	池袋駅東口A地区地区計画	6.3 ha	一般型地区計画
20	R2.3.31	池袋駅東口B地区地区計画	11.4 ha	一般型地区計画
21	R2.3.31	池袋駅東口C地区地区計画	10.0 ha	一般型地区計画
22	R2.3.31	池袋駅東口D地区地区計画	6.7 ha	一般型地区計画
23	R6.11.11(変更)	池袋駅西口A地区地区計画	8.3 ha	一般型地区計画
24	R6.11.11(変更)	池袋駅西口B地区地区計画	9.1 ha	一般型地区計画
25	R2.3.31	池袋駅西口C地区地区計画	6.3 ha	一般型地区計画
26	R2.10.6	東池袋一丁目地区地区計画	1.5 ha	一般型地区計画
面積合計			367.6 ha	

※令和2年3月31日付けで、8. 池袋駅周辺・主要街路沿道エリア地区計画を廃止し、新たに19～25の7つの地区計画を策定した。
出典：豊島区地域地区図、都市計画課作成資料

基本計画(2025-2029)の施策の効果を表す代表的な指標	現状値(2024年度)	目標値(2029年度)
地区計画の区域面積【ha】	368.0	369.0

2. 遮熱性舗装を実施した面積の推移

遮熱性舗装は、太陽熱エネルギーの過半を占める近赤外線を反射し、アスファルト舗装面の温度上昇を抑制することで、ヒートアイランド現象などの緩和が期待できる。令和6年度は要町一丁目 989 m²（工事12号）、コンコン通り（工事3号）596 m²を計上。合計 1,585 m²。



2. 交通安全対策の推進

1. 都市計画道路整備率

東京都区部における都市計画道路の整備は約 66.7%となっている。

豊島区管内では、放射線は放射 9 号線のみ事業延伸がなされているものの、完成率は 8 割を超える。一方、環状線は 5 割に満たない完成率ではある。豊島区全体での令和 6 年度末の完成率は、約 67.6%となる。事業延伸した特定整備路線が令和 8 年度末にすべての路線で完成した場合、約 78.2%となる。

【豊島区管内】	基準延長(m)	R3年度末		R4年度末		R5年度末		R6年度末		R7年度末(予定)	
	区内延長	完成延長	完成率	完成延長	完成率	完成延長	完成率	完成延長	完成率	完成延長	完成率
放射線	9,027	7,503	83.1%	7,503	83.1%	7,503	83.1%	7,503	83.1%	7,503	83.1%
環状線	5,711	2,668	46.7%	2,668	46.7%	2,668	46.7%	2,668	46.7%	2,668	46.7%
補助線+その他	26,809	17,214	64.2%	17,214	64.2%	17,214	64.2%	17,915	66.8%	17,915	66.8%
合 計	41,547	27,385	65.9%	27,385	65.9%	27,385	65.9%	28,086	67.6%	28,086	67.6%

出典：都市計画課作成資料

2. 自転車等放置台数の推移

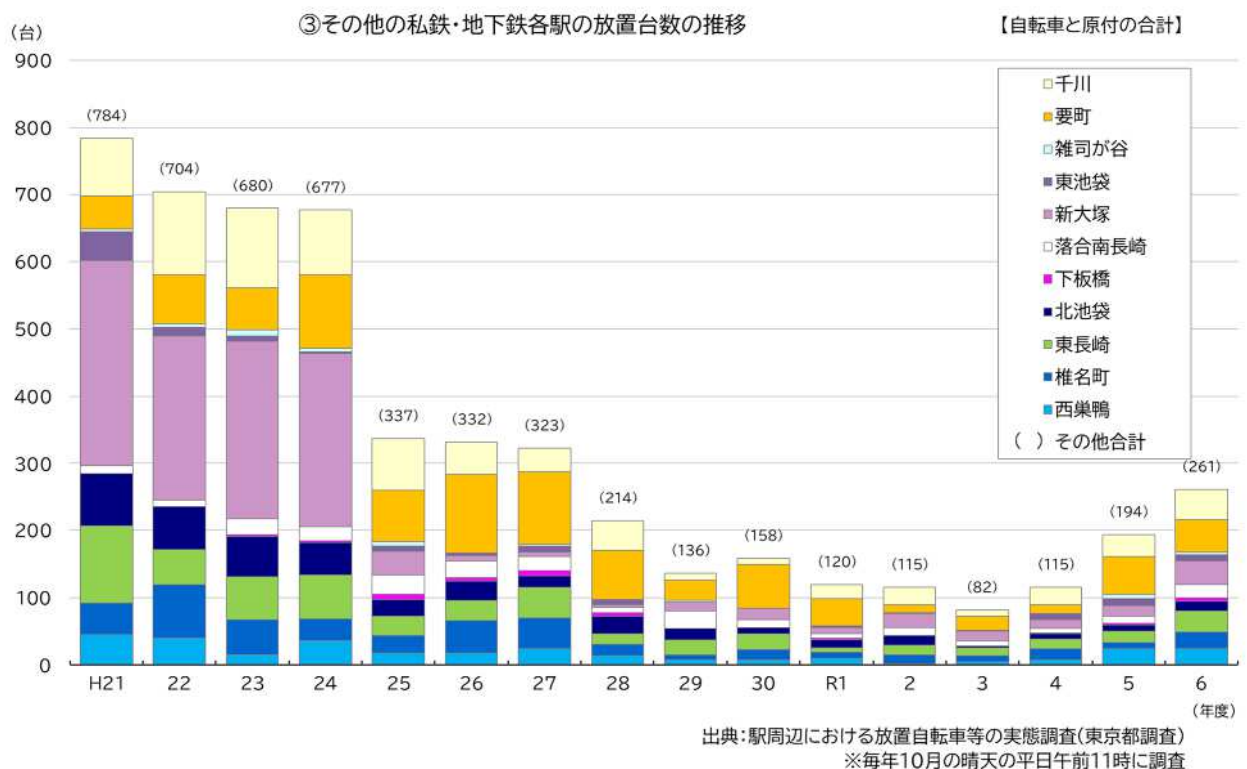
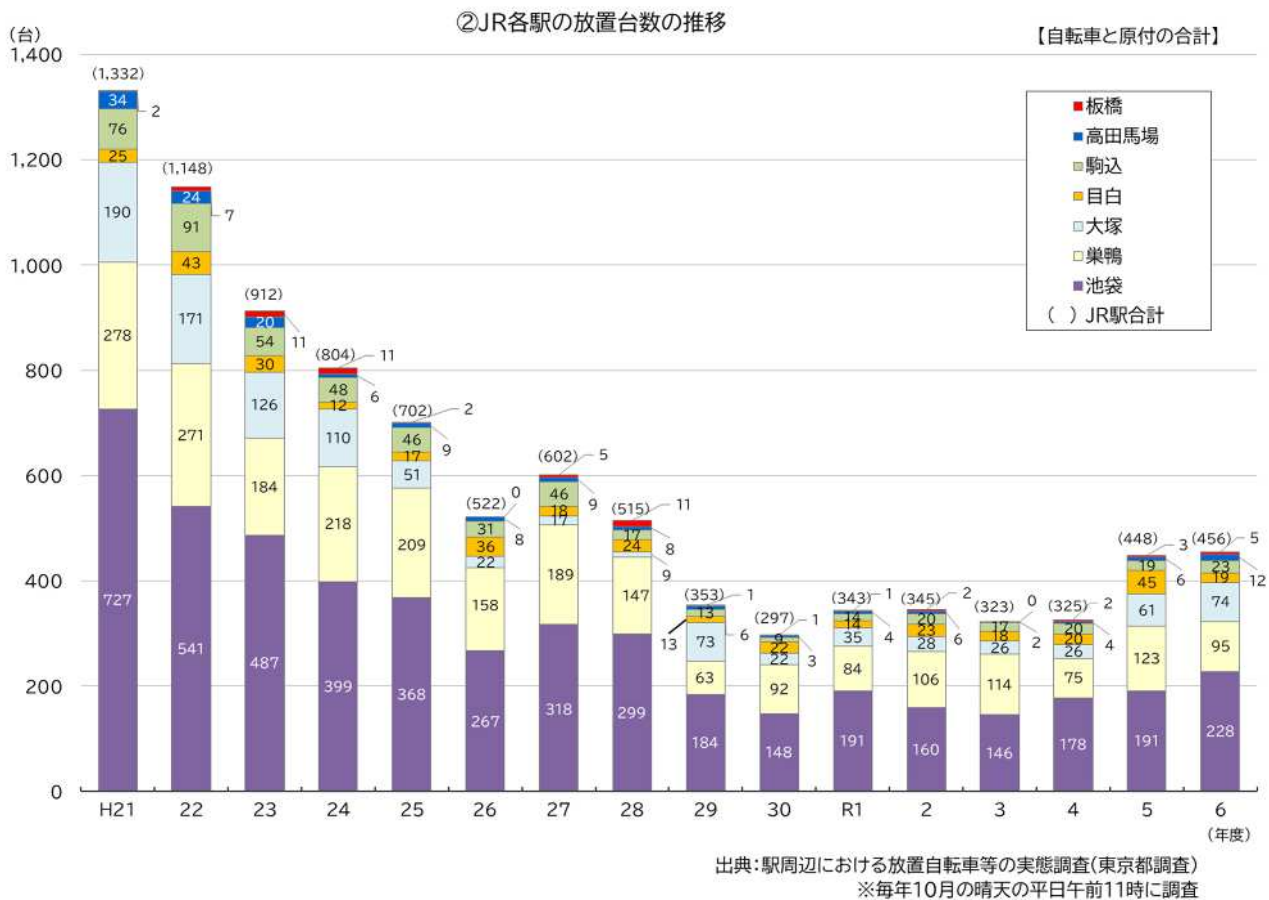
自転車等の放置台数は、平成 11 年度の 14,668 台がピークで、その後は減少に転じ、平成 29 年度以降は横ばいの状況であったが、令和 5 年度から増加し、令和 6 年度は 717 台で前年度から 75 台増加している。



出典：駅周辺における放置自転車等の実態調査(東京都調査)

※毎年10月の晴天の平日午前11時に調査

7. 誰もが居心地の良い歩きとなるまち



3. 区内自転車等駅周辺乗り入れ状況

駅周辺の放置自転車台数は減少傾向にあったが、令和4年度より増加に転じ、令和6年度は前年度より75台増加している。

*数値は、自転車及び50cc以下の原付を併せた台数である。
*東京都による一斉調査(毎年10月、晴天の平日、午前11時前後)による。

駅名		区分	11年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	ピーク時と R6年度比較
			区ピーク時						
共通	池袋	放置	4,582	160	146	178	191	228	-4,354
		適正駐車	969	2,406	2,601	3,243	3,067	3,119	2,150
		計	5,551	2,566	2,747	3,421	3,258	3,347	-2,204
	駒込	放置	138	20	17	20	19	23	-115
		適正駐車	369	460	291	404	443	372	3
		計	507	480	308	424	462	395	-112
	巣鴨	放置	3,360	106	114	75	123	95	-3,265
		適正駐車	614	946	910	912	992	873	259
		計	3,974	1,052	1,024	987	1,115	968	-3,006
	高田馬場	放置	-	6	2	4	6	12	
		適正駐車	-	51	68	70	64	74	
		計	0	57	70	74	70	86	
ＪＲ東日本	大塚	放置	1,838	28	26	26	61	74	-1,764
		適正駐車	822	774	942	924	915	922	100
		計	2,660	802	968	950	976	996	-1,664
	目白	放置	983	23	18	20	45	19	-964
		適正駐車	857	632	637	717	756	749	-108
		計	1,840	655	655	737	801	768	-1,072
	板橋	放置	-	2	0	2	3	5	
		適正駐車	-	0	0	0	0	0	
		計	0	2	0	2	3	5	
西武	椎名町	放置	314	13	9	16	10	24	-290
		適正駐車	292	279	256	280	280	281	-11
		計	606	292	265	296	290	305	-301
	東長崎	放置	182	15	12	15	17	32	-150
		適正駐車	418	200	219	185	259	221	-197
		計	600	215	231	200	276	253	-347
東武	北池袋	放置	110	14	2	7	9	14	-96
		適正駐車	131	91	85	108	88	82	-49
		計	241	105	87	115	97	96	-145
	下板橋	放置	31	0	0	2	2	5	-26
		適正駐車	466	130	137	199	117	157	-309
		計	497	130	137	201	119	162	-335
都営	西巣鴨	放置	887	2	5	8	24	25	-862
		適正駐車	0	120	146	132	174	184	184
		計	887	122	151	140	198	209	-678
	落合 南長崎	放置	82	12	8	6	11	20	-62
		適正駐車	178	180	180	172	148	154	-24
		計	260	192	188	178	159	174	-86
東京地下鉄	新大塚	放置	346	21	15	13	15	35	-311
		適正駐車	0	91	105	105	95	105	105
		計	346	112	120	118	110	140	-206
	雑司が谷	放置	-	0	0	1	6	4	
		適正駐車	-	39	49	48	47	50	
		計	0	39	49	49	53	54	
	東池袋	放置	435	1	1	9	11	9	-426
		適正駐車	153	313	372	347	347	344	191
		計	588	314	373	356	358	353	-235
	要町	放置	848	12	21	12	56	48	-800
		適正駐車	367	632	621	564	751	750	383
		計	1,215	644	642	576	807	798	-417
	千川	放置	532	25	9	26	33	45	-487
		適正駐車	878	1,070	1,125	1,129	1,183	1,248	370
		計	1,410	1,095	1,134	1,155	1,216	1,293	-117

計	区分	11年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	ピーク時と R6年度比較
	放置	14,668	460	405	440	642	717	-13,951
	適正駐車	6,514	8,414	8,744	9,539	9,726	9,685	3,171
	計	21,182	8,874	9,149	9,979	10,368	10,402	-10,780

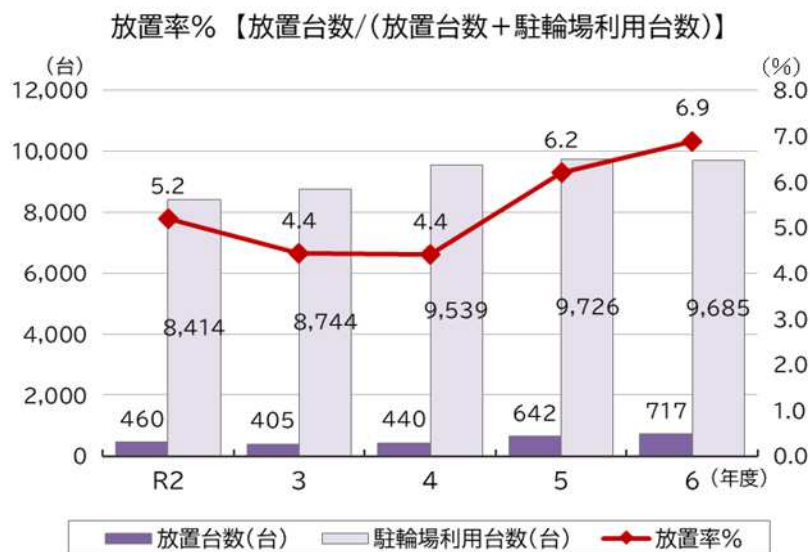
*参考

都全域(放置ピーク平成2年:24.3万台) → (令和6年:1.6万台)・・・ピーク時より22.7万台減(93%減)
(乗り入れピーク平成6年:75.5万台)→(令和6年:55.8万台)・・・ピーク時より19.7万台減(26%減)

出典:駅周辺における放置自転車等の実態調査(東京都調査)

4. 駅周辺の自転車等乗り入れ台数に対する放置自転車等台数の割合

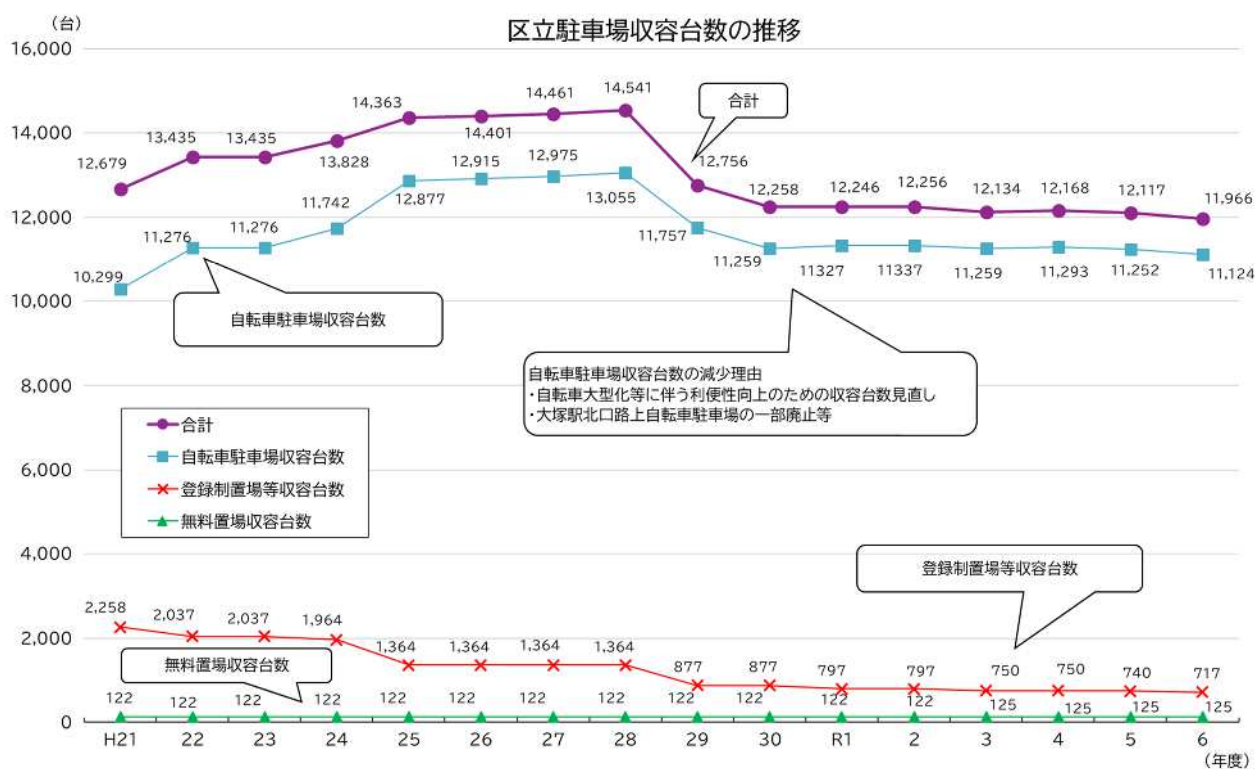
令和6年度は放置台数が前年度より75台増加し、駐輪場利用台数が前年度より41台減少した。放置率は6.9%となった。



出典:駅周辺における放置自転車等の実態調査(東京都調査)

5. 区立駐車場収容台数の推移

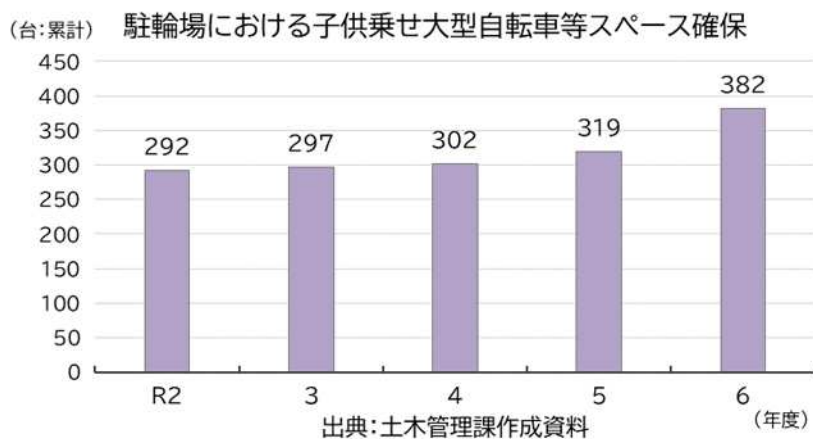
平成18年度に自転車法に基づく「豊島区自転車等の利用と駐輪に関する総合計画」を策定し、鉄道事業者や道路管理者などに協力を求め整備を進めてきた。その後は、平成28年度に策定した「第二次豊島区自転車等の利用と駐輪に関する総合計画」に基づき、自転車駐車場の整備、改修を進めている。



出典:土木管理課作成資料

6. 駐輪場における子供乗せ大型自転車等スペース確保数の推移

近年の自転車の大型化に伴い駐輪場の利用環境を充実するために、既存駐輪場の改善及び新規にスペースを確保している。



7. 撤去自転車の推移

令和6年度の自転車撤去数は前年度より293台減となり、返還率は約73.2%であった。撤去した自転車で返還されなかったもののうち質の良い物については、リサイクル・売却を行い有効活用している。



7. 誰もが居心地の良い歩きとなるまち

8. 都内で放置台数の多い駅

令和6年度は池袋が都内で放置台数の多い駅2位となった。

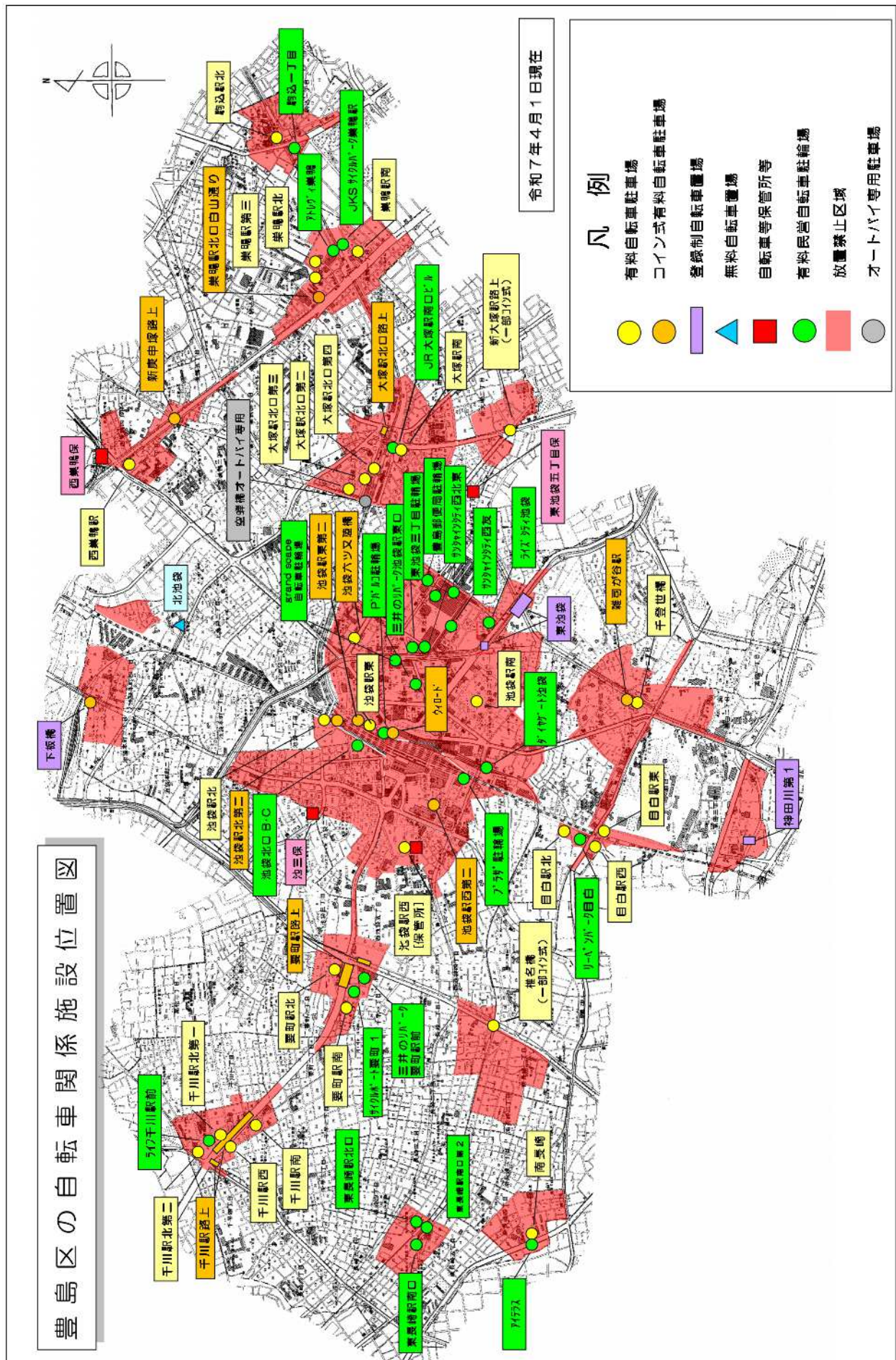
都内で放置台数の多い駅

【自転車、原付、自動二輪の合計数】

順位	令和元年			令和2年			令和3年			順位
	駅名	放置台数	区市名	駅名	放置台数	区市名	駅名	放置台数	区市名	
1	恵比寿	364	渋谷区	赤羽	301	北区	京成立石	274	葛飾区	1
2	新小岩	310	葛飾区	幡ヶ谷	267	渋谷区	高円寺	263	杉並区	2
3	代官山	290	渋谷区	恵比寿	265	渋谷区	浅草(TX)	243	台東区	3
4	中野	289	中野区	京成立石	262	葛飾区	外苑前	232	港区	4
5	幡ヶ谷	270	渋谷区	新小岩	260	葛飾区	新小岩	230	葛飾区	5
6	京成立石	268	葛飾区	浅草(TX)	255	台東区	御徒町、上野御徒町、上野広小路、仲御徒町	220	台東区	6
7	秋葉原	256	千代田区	御徒町、上野御徒町、上野広小路、仲御徒町	227	台東区	幡ヶ谷	215	渋谷区	7
8	高円寺	255	杉並区	秋葉原	219	千代田区	秋葉原	201	千代田区	8
9	千歳烏山	254	世田谷区	神田	209	千代田区	蒲田	194	大田区	9
10	浅草(TX)	251	台東区	外苑前	209	港区	入谷	193	台東区	10
							武蔵小山	193	品川区 目黒区	
順位	令和4年			令和5年			令和6年			順位
	駅名	放置台数	区市名	駅名	放置台数	区市名	駅名	放置台数	区市名	
1	新小岩	326	葛飾区	新小岩	281	葛飾区	秋葉原	293	千代田区	1
2	高円寺	313	杉並区	蒲田	217	大田区	池袋	233	豊島区	2
3	馬喰町、馬喰横山、東日本橋	301	中央区	京成立石	213	葛飾区	浅草(TX)	231	台東区	3
4	小川町、淡路町	208	千代田区	高円寺	209	杉並区	高円寺	217	杉並区	4
5	亀戸	208	江東区	浅草(TX)	202	台東区	神保町	214	千代田区	5
6	秋葉原	207	千代田区	池袋	193	豊島区	幡ヶ谷	207	渋谷区	6
7	外苑前	193	港区	秋葉原	184	千代田区	北八王子	198	八王子市	7
8	京成立石	190	葛飾区	学芸大学	176	目黒区	御徒町、上野御徒町、上野広小路、仲御徒町	198	台東区	8
9	神田	183	千代田区	小川町、淡路町	173	千代田区	新小岩	178	葛飾区	9
10	武蔵小山	179	品川区 目黒区	北八王子	172	八王子市	原宿、明治神宮前	176	渋谷区	10
	池袋	179	豊島区	武蔵小山	172	品川区 目黒区				
	北八王子	179	八王子市							

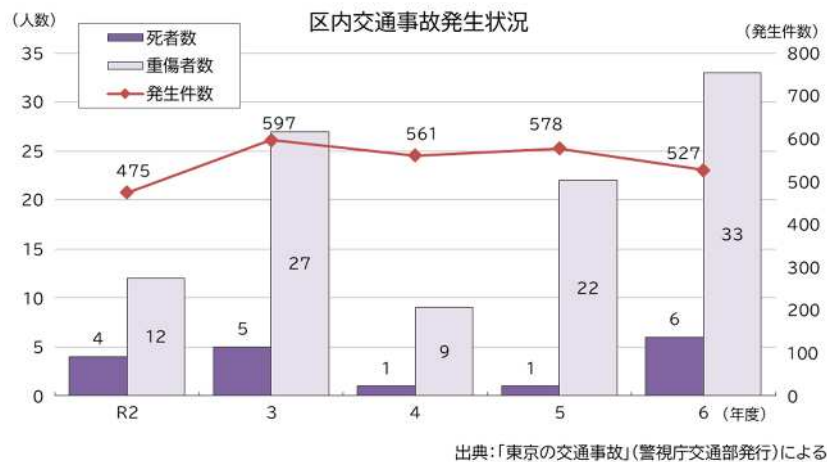
出典：「駅前放置自転車等の現況と対策」
(東京都)

9. 自転車関係施設位置図

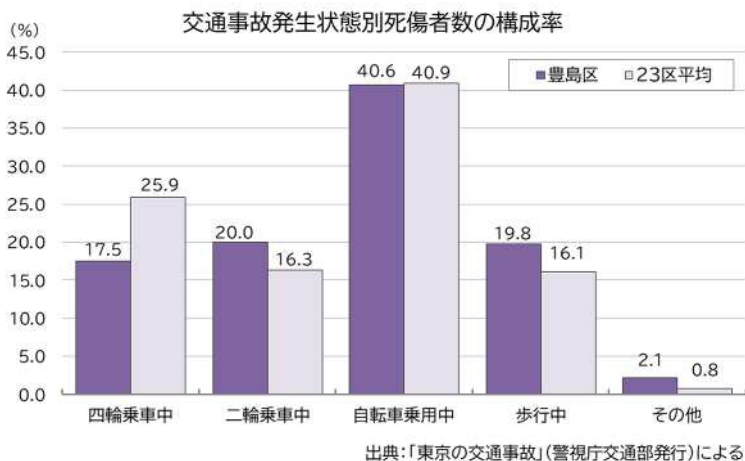


10. 交通事故発生状況

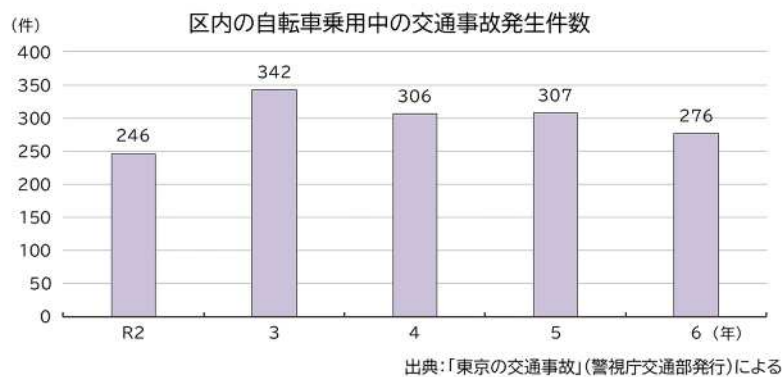
令和5年から令和6年にかけて交通事故発生件数が減少したが、死者数（6名中4名が区外来街者）は増加した。



豊島区で令和6年中に発生した交通事故による死傷者数の構成率は、自転車乗用中が最も多くを占めている。二輪乗車中と歩行中での死傷者数の構成率は23区平均を上回っている。



令和5年から令和6年にかけて自転車乗用中の交通事故発生件数は減少している。



基本計画(2025-2029)の施策の効果を表す代表的な指標	現状値(2024年度)	目標値(2029年度)
年間(1月～12月)の区内の自転車乗用中の交通事故発生件数【件】	307 (2023年)	260(2028年)

1 1. 自転車ヘルメット補助個数

幼児・児童用自転車ヘルメット補助は平成 24 年 5 月より開始し、高齢者用自転車ヘルメット補助は令和元年 11 月より開始した。令和 5 年 4 月 1 日自転車ヘルメット着用の努力義務化に伴う区民ニーズの高まりを受け、令和 5 年 7 月 11 日より補助対象を全年齢層に拡大した。



1 2. 交通安全研修会

令和 3 年度から令和 6 年度にかけて参加人数が増加している。

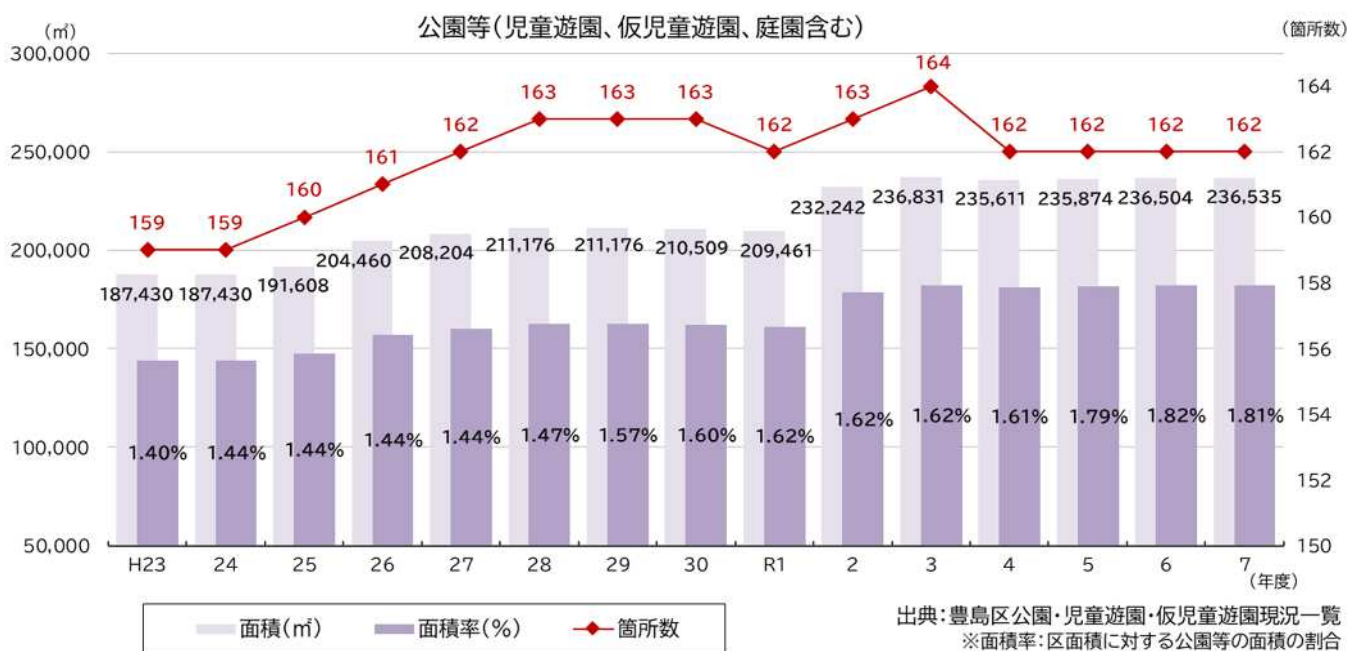


基本計画(2025-2029)の施策の効果を表す代表的な指標	現状値(2024年度)	目標値(2029年度)
交通安全研修会(子育て世代・高齢者研修会)等への参加人数【人】	1,092	1,065

3. 魅力ある公園づくり

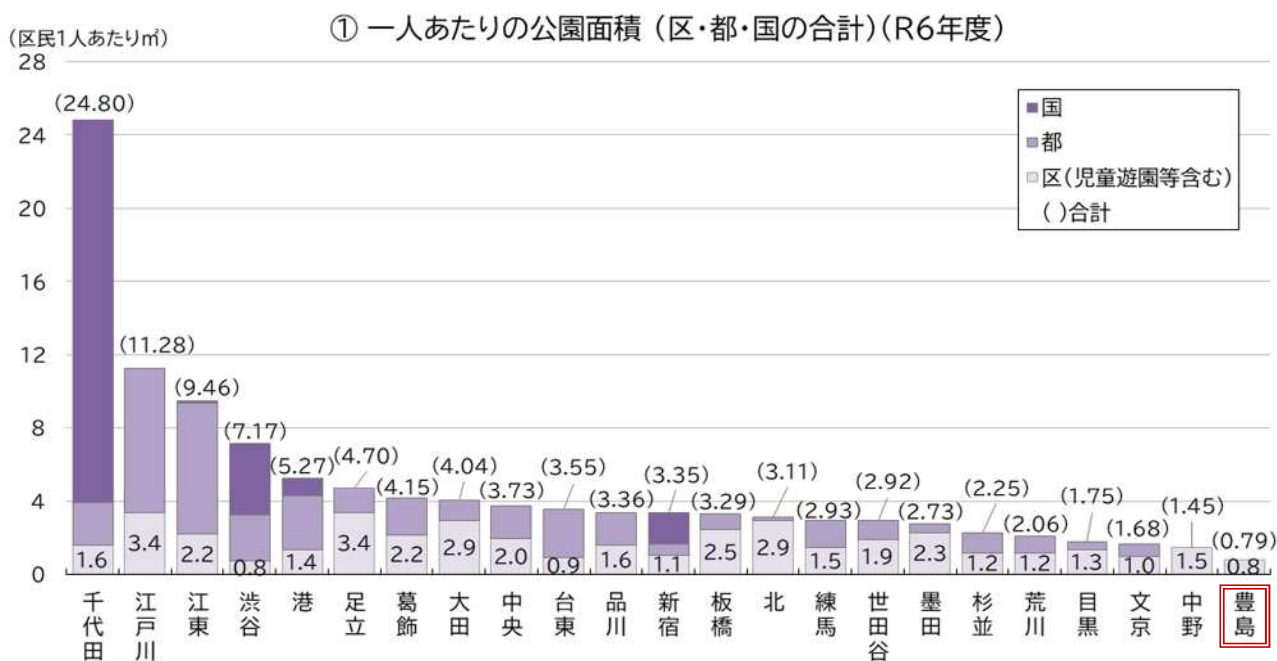
1. 公園等の整備状況

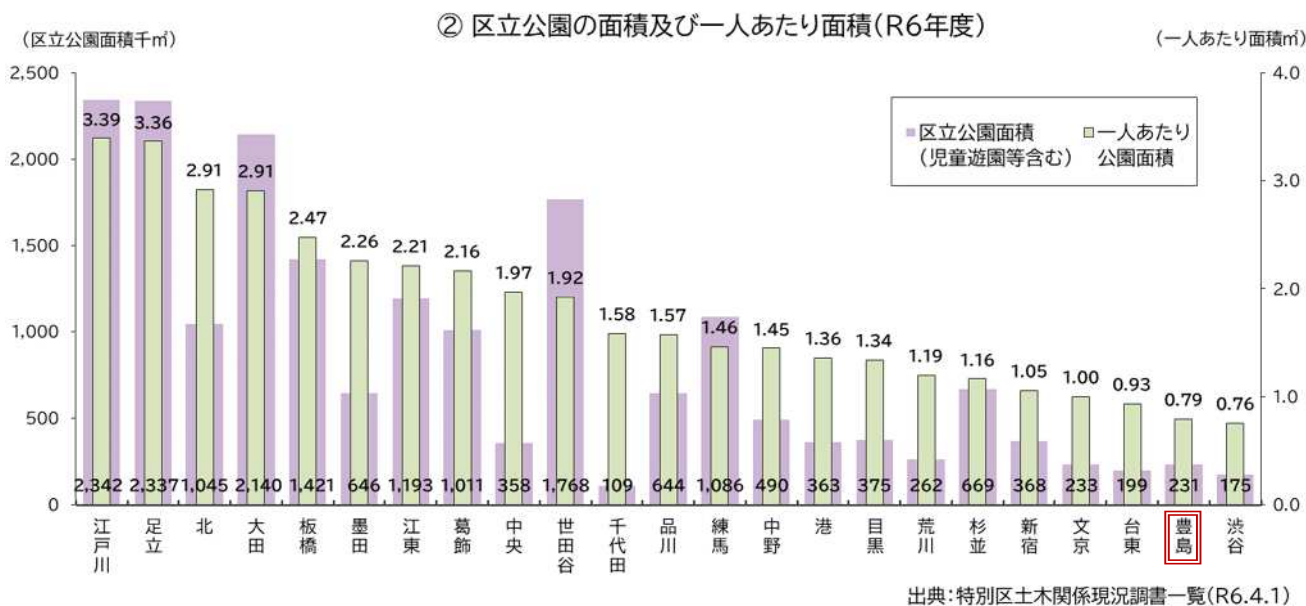
令和2年にとしまみどりの防災公園が開園し、公園面積は230,000㎡を上回った。公園面積は15年で増加傾向である。その後、令和3年に池袋四丁目児童遊園廃止、南長崎四丁目児童遊園廃止で公園面積・公園数が減少する一方で、令和4年に池袋本町二丁目児童遊園の拡張整備、令和5年の東池袋五丁目公園の開園や巣鴨五丁目児童遊園拡張の実施など、公園面積の拡大が進んでいる。



2. 一人あたりの公園面積 23区比較

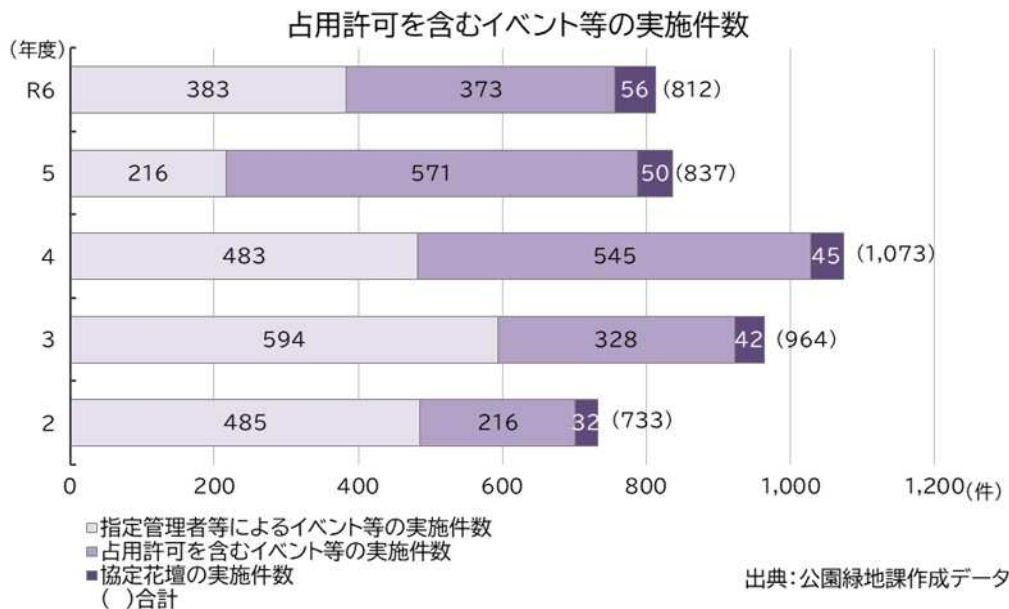
豊島区(R6.4.1)は国立・都立公園が無く、大規模公園が無いいため、一人当たりの公園面積は23区中最下位となっている。





3. 占用許可を含むイベント等の実施件数

各実施件数は、公園を利用するお祭りや各種イベント、花壇の手入れ回数など取り組みの成果を示す活動であり、所管課のデータから算出し精度等が低いため、あくまでも参考指標とする。



基本計画(2025-2029)の施策の効果を表す代表的な指標	現状値(2024年度)	目標値(2029年度)
公園活用協定やみどりの協定等を締結し、公園等で利活用を行う団体数【団体】	62	66

※2024年度内訳(活用協定6団体+みどりの協定 56 団体)